



# 2023年5月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年10月17日

上場会社名 Shinwa Wise Holdings株式会社  
コード番号 2437 URL <https://www.shinwa-wise.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 倉田 陽一郎  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 岡崎 奈美子

TEL 03-5537-8024

四半期報告書提出予定日 2022年10月17日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年5月期第1四半期の連結業績(2022年6月1日～2022年8月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年5月期第1四半期	584	50.4	17	22.7	22	13.2	5	69.3
2022年5月期第1四半期	388	71.1	22		19		3	

(注) 包括利益 2023年5月期第1四半期 10百万円 ( 89.6%) 2022年5月期第1四半期 97百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年5月期第1四半期	0.61	0.55
2022年5月期第1四半期	0.49	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年5月期第1四半期	4,368	3,189	72.7	315.37
2022年5月期	4,158	3,023	72.2	311.23

(参考) 自己資本 2023年5月期第1四半期 3,174百万円 2022年5月期 3,003百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年5月期		0.00		0.00	0.00
2023年5月期					
2023年5月期(予想)					

(注)1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無:無

2. 2023年5月期の期末配当予想は未定としております。

## 3. 2023年5月期の連結業績予想(2022年6月1日～2023年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	2,592	11.2	516	26.2	516	22.4	306	111.9

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無:無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年5月期1Q	10,066,518 株	2022年5月期	9,651,518 株
期末自己株式数	2023年5月期1Q	株	2022年5月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年5月期1Q	9,678,583 株	2022年5月期1Q	7,107,018 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(追加情報) .....	10
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2022年6月1日～2022年8月31日)におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の感染者数の減少に伴い、各種制限が段階的に緩和され、社会経済活動の正常化の兆しが見られました。しかしながら、同感染症の収束が未だ見通せぬほか、ウクライナ情勢や、急激な円安進行による景気減速への懸念が強まり、先行きは依然として不透明な状況が続いております。一方で、インフレ懸念の高まりから実物資産への需要が増加傾向にあり、日本国内の美術品市場は引き続き取引が活発な状況であると言えます。

そのような状況の中、アート関連事業において、取扱高は前年と比べ、大きく増加いたしました。中でもオークション事業は、前年同期と比し、111%増の11億3600万円となりました。オークション事業の新たな柱となるコンテナラリーアート(現代美術)は活況をみせ、前年同期143%増の結果となりました。また、前期の半ばより連結子会社となったアイアート株式会社も加わり、オークション事業の強化を推進しております。

プライベートセール・その他事業は、美術品等の相対取引、NFTアートや資産防衛ダイヤモンドを中心に順調に売上を伸ばしております。

その他事業では、自社所有の売電事業は順調に稼働しており、また、新型コロナウイルス感染症対策の緩和措置により、マレーシアでのPKS事業は事業を再開し、再生可能エネルギーに対する世界的な需要拡大の中で、販売を再開しております。

前期第4四半期から業務を開始したEdoverse株式会社は、当第1四半期には、土地NFTの販売やメタバース空間開発等のコンサルティング業務を積極的に推進しており、第2四半期より売上を計上する予定です。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

## ①アート関連事業

当第1四半期連結累計期間は、取扱高1,529,863千円（前年同期比84.0%増）、売上高535,333千円（前年同期比41.8%増）、セグメント利益46,962千円（前年同期比27.7%減）となりました。

種別の業績は次のとおりです。

種別	第34期第1四半期連結累計期間							
	自 2022年6月1日 至 2022年8月31日							
	取扱高 (千円)	前年比 (%)	売上高 (千円)	前年比 (%)	オークション 開催数	オークション 出品数	オークション 落札数	落札率 (%)
近代美術オークション	413,950	98.5	74,682	80.1	1	127	106	83.5
近代陶芸オークション	166,855	△30.7	27,115	△31.9	1	181	148	81.8
近代美術PartⅡオークション	27,815	△10.2	5,376	△23.5	1	187	163	87.2
コンテンポラリーアートオークション	134,990	143.5	25,340	113.4	1	74	60	81.1
その他オークション (注)1	92,240	3,589.6	20,456	3,778.1	2	409	366	89.5
アイアートオークション	299,830	-	72,142	-	1	157	108	68.8
オークション事業合計	1,135,680	111.0	225,114	123.5	7	1,135	951	83.8
プライベートセール	317,409	8.4	275,484	0.9				
その他	76,774	16,482.0	34,733	839.7				
プライベートセール・ その他事業合計	394,183	34.4	310,218	12.1				
アート関連事業合計	1,529,863	84.0	535,333	41.8				

(注) 1. その他オークションは、出品の状況により随時開催いたします。

2. 取扱高の前年比と売上高の前年比の乖離の大きな要因のひとつに、商品売上高の増減があります。商品売上高は、オークション落札価額に対する手数料収入、カタログ収入、年会費等と同様に売上高を構成する要素のひとつであり、在庫商品を販売した場合、その販売価格（オークションでの落札の場合には落札価額）を商品売上高として、売上高に計上することとしております。

## i) オークション事業

当第1四半期連結累計期間は、オークションの開催回数は7回（前年度同期開催回数4回）でした。

内訳は、近代美術オークション（前年度同期は1回）、近代陶芸オークション（前年度同期は1回）、近代美術PartⅡオークション（前年度同期は1回）、コンテンポラリーアートオークション（前年度同期は1回）、ワイン・リカーオークション（前年度同期は0回）、MANGAオークション（前年度同期は0回）及びアイアートオークションを各1回です。

近代美術オークションは、前年比で出品点数増減なし、落札点数7.1%増となりました。平均落札単価は86.2%増となり、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率も、199.0%と高水準で推移いたしました。

近代陶芸オークションは、出品点数17.0%減、落札点数20.0%減となりました。エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、179.3%と高水準で推移しましたが、平均落札単価は13.3%減となりました。

近代美術PartⅡオークションは、出品点数15.4%減、落札点数10.9%減となりました。平均落札単価は0.2%増加し、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、148.6%と高水準で推移となりました。

コンテンポラリーアートオークションは、出品点数12.1%増、落札点数3.4%増となりました。良質な作品が出品され、エスティメイト下限価額合計額に対する落札価額合計額の比率は、251.4%と高水準で推移し、売上高は前年比113.4%増となりました。

その他オークションのワイン・リカーオークションは、エスティメイト下限価額合計額は59,505千円、落札合計額は81,840千円となり、エスティメイト下限価額合計額に対する落札価額合計額の比率は137.5%と高水準で推移しました。

当社グループは、通常、第1四半期は、当社の顧客基盤である富裕層が夏季休暇シーズンに入り、季節的に事業自体が閑散期となり、8月はオークションを開催しないため、例年、経常利益ベースで黒字を確保することが困難な状況ではありましたが、四半期による季節性を平準化させる事業構築につとめ、当第1四半期は、22,306千円の経常利益を計上することができました。

## ii) プライベートセール・その他事業

プライベートセール・その他事業では、当第1四半期は、美術品のプライベートセールやNFTアートの販売で順調に売上を伸ばしました。資産防衛ダイヤモンド販売事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が出始めた頃から、資産防衛としてのダイヤモンドの需要が高まり、売上高は前年比85.5%増と当第1四半期も順調に売り上げを伸ばしております。

結果として、プライベートセール・その他事業は、前年比で取扱高34.4%増、売上高12.1%増と高水準で推移しました。

## ②その他事業

子会社保有の太陽光発電施設による売電事業は、9,264千円の売上となり、前年比10.5%増となりました。その他、マレーシアにおけるPKS事業では新型コロナウイルス感染症による影響により事業展開が難しい状況が続いておりましたが、徹底した販管費の見直しや販売先を他国に広げるなどの施策を実施し、為替の影響もありますが、当第1四半期連結累計期間のその他事業のセグメント売上高は48,991千円（前年同期間比352.6%増）、セグメント利益6,590千円（前年同期間は12,059千円のセグメント損失）となりました。

結果として、各事業の営業体制を強化することにより、グループ全体で利益をあげる体質の構築に取り組み、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高584,324千円（前年同期間比50.4%増）、営業利益17,144千円（前年同期間比22.7%減）、経常利益22,306千円（前年同期間比13.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益5,858千円（前年同期間比69.3%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、4,368,958千円となり、前連結会計年度末に比べ、210,696千円増加いたしました。その主な内訳は現金及び預金の増加147,051千円、商品の増加60,581千円によるものであります。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、1,179,604千円となり、前連結会計年度末に比べ、44,889千円増加いたしました。その主な内訳は流動負債「その他」に含めている仮受金の増加320,228千円、短期借入金の減少100,000千円及び未払法人税等の減少164,209千円によるものであります。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は3,189,354千円となり、前連結会計年度末に比べ、165,807千円増加いたしました。その主な内訳は、新株予約権行使による資本金の増加80,302千円及び資本剰余金の増加80,302千円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

- ・2022年7月13日に発表いたしました連結業績予想について変更はありません。
- ・前期から業務を開始したEdoverse株式会社は、当第1四半期には、土地NFTの販売やメタバース空間開発等のコンサルティング業務を積極的に推進しており、第2四半期より売上を計上する予定です。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,312,473	1,459,525
売掛金	93,036	97,955
オークション未収入金	44,119	11,362
商品	1,172,144	1,232,725
前渡金	9,988	—
その他	245,988	326,710
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	2,877,748	3,128,277
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	36,688	34,693
機械装置及び運搬具(純額)	19,633	13,512
土地	12,900	12,900
その他(純額)	24,526	27,179
有形固定資産合計	93,748	88,285
無形固定資産		
のれん	724,163	708,070
ソフトウェア	26,840	24,596
無形固定資産合計	751,003	732,666
投資その他の資産		
関係会社株式	60,600	60,600
投資有価証券	115,735	114,062
繰延税金資産	162,015	142,436
その他	210,769	215,988
貸倒引当金	△113,359	△113,359
投資その他の資産合計	435,761	419,728
固定資産合計	1,280,512	1,240,680
資産合計	4,158,261	4,368,958
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	20,659	32,018
オークション未払金	84,744	65,569
短期借入金	100,000	—
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
1年内返済予定の長期借入金	31,228	31,228
未払法人税等	177,508	13,299
賞与引当金	38,271	13,277
役員賞与引当金	36,500	36,500
その他	267,994	633,947
流動負債合計	761,907	830,842
固定負債		
長期借入金	273,429	265,622
退職給付に係る負債	30,333	31,910
訴訟損失引当金	49,925	32,800
その他	19,120	18,429
固定負債合計	372,807	348,761
負債合計	1,134,714	1,179,604

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,594,264	1,674,567
資本剰余金	1,315,470	1,395,772
利益剰余金	79,538	85,396
株主資本合計	2,989,273	3,155,737
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,495	5,334
為替換算調整勘定	8,093	13,577
その他の包括利益累計額合計	14,588	18,912
新株予約権	19,684	14,704
純資産合計	3,023,546	3,189,354
負債純資産合計	4,158,261	4,368,958

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
売上高	388,411	584,324
売上原価	183,036	284,665
売上総利益	205,375	299,658
販売費及び一般管理費	183,195	282,514
営業利益	22,179	17,144
営業外収益		
受取利息	119	142
為替差益	82	5,407
未払配当金除斥益	252	—
デリバティブ評価益	528	480
法人税等還付加算金	588	—
その他	79	1,515
営業外収益合計	1,650	7,546
営業外費用		
支払利息	1,390	1,073
支払手数料	54	—
暗号資産評価損	—	1,311
その他	2,677	—
営業外費用合計	4,122	2,385
経常利益	19,707	22,306
特別利益		
賞与引当金戻入額	—	9,870
特別利益合計	—	9,870
特別損失		
貸倒損失	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純利益	19,706	32,176
法人税、住民税及び事業税	10,356	6,226
法人税等調整額	5,889	20,091
法人税等合計	16,245	26,317
四半期純利益	3,461	5,858
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,461	5,858

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
四半期純利益	3,461	5,858
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	91,998	△1,161
為替換算調整勘定	2,154	5,484
その他の包括利益合計	94,153	4,323
四半期包括利益	97,614	10,182
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	97,614	10,182

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束見通し時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

## I 前第1四半期連結累計期間(自2021年6月1日至2021年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)	四半期連結財務諸表計上額
	アート関連事業	その他事業			
売上高	377,588	10,823	388,411	-	388,411
セグメント利益又はセグメント損失(△)	64,938	△12,059	52,878	△30,698	22,179

(注)セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△30,698千円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2022年6月1日至2022年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)	四半期連結財務諸表計上額
	アート関連事業	その他事業			
売上高	535,333	48,991	584,324	-	584,324
セグメント利益	46,962	6,590	53,553	△36,408	17,144

(注)セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△36,408千円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。